

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は68万6173人で、前年の72万7288人より4万1115人減少し、明治32年の人口動態調査開始以来最少となった。出生率(人口千対)は5.7で前年の6.0より低下し、合計特殊出生率は1.15で前年の1.20より低下し、過去最低となった。(第1表、第2表、第3表)

母の年齢(5歳階級)別にみると、出生数は15～49歳の各階級では前年より減少している。合計特殊出生率の内訳は44歳以下の各階級で前年より低下したが、45歳以上では上昇した。なお、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、30～34歳の階級が最多・最高となっている。(第6表(1)、第7表(1))

出生順位別にみると、出生数及び合計特殊出生率の内訳ともに、いずれの出生順位についても前年より減少・低下した(第6表(2)、第7表(2))。

母の年齢(5歳階級)別と出生順位別を併せてみると、合計特殊出生率の内訳は20歳～44歳の各階級ではいずれの出生順位についても前年より低下した(第7表(3))。

2 死亡数は増加

死亡数は160万5378人で、前年の157万6016人より2万9362人増加し、調査開始以来最多となった。死亡率(人口千対)は13.3で前年の13.0より上昇した。(第1表、第2表)

死因別にみると、前年と同様、死因順位第1位は悪性新生物＜腫瘍＞で死亡数は38万4111人(死亡総数に占める割合は23.9%、死亡率(人口10万対)は319.3)、第2位は心疾患(同14.1%、188.2)、第3位は老衰(同12.9%、172.0)となっている。

なお、新型コロナウイルス感染症の死亡数は、3万5865人(同2.2%、29.8)で第8位となっている。(第8表)

年齢調整死亡率(人口千対)は男14.2、女7.8で、男は前年の14.1より上昇し、女は前年の7.8と同率であった(第1表)。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△91万9205人で、前年の△84万8728人より7万477人減少し、過去最大の減少となった。

また、自然増減率(人口千対)は△7.6で前年の△7.0より低下し、実数・率ともに18年連続で減少・低下した。(第1表、第2表、第3表)

4 死産数は減少

死産数は1万5323胎で、前年の1万5534胎より211胎減少し、死産率(出産(出生+死産)千対)は21.8で、前年の20.9より上昇した(第1表)。

5 婚姻件数は増加

婚姻件数は48万5092組で、前年の47万4741組より1万351組増加し、婚姻率(人口千対)は4.0で前年の3.9より上昇した(第1表)。

6 離婚件数は増加

離婚件数は18万5904組で、前年の18万3814組より2090組増加し、離婚率(人口千対)は1.55で前年の1.52より上昇した(第1表)。